

【めむろ未来ミーティング日程1】

令和3年1月16日(土)

13:30~15:45

めむろード2階セミナーホール

■参加者 23人

■芽室町 町長、副町長、教育長、企画財政課長

■記録 今森

■対応・検討が必要な事項

①交通標識設置要望の件(総務課)

②芽室小学校西通除雪の件(学校教育課)

- 1 開会
- 2 町長挨拶
- 3 町からの説明事項
- 4 意見交換

【意見】

ペットのことについて。現在ドッグランは新嵐山にしか所あるが、あそこまで大きくなくても良いので、市街地にもいくつか作った方が良いのではと思う。モデル的に一か所作り、利用者と共に芝生を植えたり、そこで狂犬病の予防接種を受けられるような取り組みがあっても良いのではないかな。

また、ペットのマナーについて。先日町内をウォーキングしたとき、道の角々が排尿・マーキングで真っ黄色になっていた。先のドッグランの件と合わせ、マナーの啓発はできないか。

美生川河川敷のパークゴルフ場の入り口、真ん中の排水路にペット進入禁止の看板を設置できないか。私自身、一週間に2回、ペットのフンを拾っている。進入禁止の場所に入っている人に個人的に注意するも、効果が無かった。中・小型犬のリードを外して入っている人もいる。広報「すまいる」で公園へのペット進入禁止看板の設置要望が出ていたが、パークゴルフ場も

ひどい状況。農協周辺のところには強い言葉で注意を促す看板が設置されている。軽い言葉で注意書きがあっても流されてしまうので、公園の看板を更新するときには、ぜひ改善してほしい。

『新型コロナウイルス対策とペット』情報として厚生労働省がインターネットで公表しているものを見ると、動物は寄生虫・病原菌を持っているので距離を置くべきと書いてある。こういったものを広報に掲載してはどうか。

【町長】

まずドッグランについて。新嵐山でもドッグランは大きなものとして位置づけている。ペットを飼っている方の中にはお金を払ってでもドッグランを利用したいという方もいると聞いている。たとえば飼い主さん同士のネットワークも非常に大きいものなので、道内で「こういう良いドッグランがある」ということになると、道内から色々な方が集まるような話も聞いている。

経営の話になるが、新嵐山に関してはドッグランを整備し、排泄物問題などを整理したうえで収入源として考えられたらと思う。

市街地のドッグランについては民間事業者で一軒やっているところは把握している。市街地は疲弊しているスピードも速くなっているため、市街地の方にも憩いの場のようなものを作る必要があると思っている。その中の一つのアイデアとして考えたい。

ペットのマナーというものをこちらから全て強制することはできないが、仰るとおり啓発は重要である。広報などを通じて発信していきたい。最終的には飼い主の方々の意識が変わらないといけないので、長いスパンで取り組んでいく必要があると思っている。

立ち入り禁止の看板設置等、行政として対応できることもある。具体的にひどい所など、今回情報をいただいた箇所を含め看板設置など検討できると思う。全町的な情報を集めた上で環境整備、広報などを通じた啓発をやっていきたい。

【意見】

機構改革について。魅力創造課、魅力創造係の方に

町内会関係が割り振られると聞いた。総務課に危機対策係があるが、この係のうちの一人が担当として防災関係の業務にあたるという体制では、町内会との関わりが薄くなる。私の希望としては、これを一つにして町内会連合会と協力して減災に力を入れて欲しい。

【町長】

おっしゃる通り危機対策、災害対応は重要であると感じている。組織の中では総務課がメインとはいえ、災害対応ということになれば組織全体であたることになる。もちろん町内会の皆様との連携も大事になるので、これは防災に限らず、課の中だけでは解決しないものは多々ある。

町内会の推進・発展ということを考えると、町内会は災害対応のみの組織ではない。ご提言のあった内容については、総務課と町内会の推進担当の方でしっかり連携をとって業務にあたるということでご理解いただきたい。

【意見】

災害対策について。一部の町内会はちゃんと動いているが、自主防災組織を作ったところですら、ほとんど動きがないところもある。その辺りはもう少し力を入れてほしい。

【町長】

防災について、町内会ごとの取り組みに温度差があることは事実。実際の災害は町全体にくるので、しっかり対応できる町内会の体制づくりについては役場側で仕掛けなければならないと思う。活用いただいている例とそうでないものがあるが、地域担当制。2名ずつ役場職員を充てさせていただいている。

色々役場側に伝えてくれるところもあれば、お呼びがかからないところもある。今考えているのは、町内会の役員会にお邪魔して連携するなど、そういった活動にも力を入れたいと考えている。

【意見】

公立芽室病院について。病院側の経営についてお知らせいただいている、努力されていることに大変あ

りがたく思っている。具体的に診療内容がどのように変化するのか。

【町長】

実は公立芽室病院は「総合診療科」というものを既に立ち上げており、標榜としては「内科総合診療科」というものを立ち上げている。この総合診療科の中に、残念ながら12月退職された先生がいるが、その方が外科の資格を持って、トータル的に総合診療科でやっていた。前院長先生もこのたび退職となり、外科専門医がいなくなるということになる。

昨年の4月からやっていた総合診療科の中では本当に急性期、大変なものについては対応できないかもしれないが、一般的に外科で見られるものについては総合診療科で見られるという形になると思う。外科として、例えば下肢静脈瘤の手術などでも公立芽室病院は有名だったが、そういったものについては停滞、後退してしまうと思っている。しかし、トータル的には総合診療科の中で区別せず、診療していけたらと考えている。外科については廃止ではなく、休止となっている。

総合診療のできる外科の先生に来ていただくという考えもあるが、完全に外科を無くすという考えは持っていない。そういう医師招致には力を入れていきたい。ただ、印象として外科が無くなってしまいうように感じられるかもしれないので、今後の私どもの説明の中でもしっかりこの旨を説明していきたい。

また、救急外来だとかそういったものを無くすつもりは全くない。どうしても公立芽室病院でやりきれないものについては、申し訳ないが大きな病院の方に移送させていただくことになると思う。

【意見】

他の科は変わらないということによろしいか

【町長】

他の科については変わる予定はない。

【意見】

新嵐山計画について、分からない単語がある。「リフトを活かしたジップラインの導入」というのと、キャンプエリアの方の「フリーサイト」「ワンデイキャンプ」「グランピング」はどう違うのか。

また、ワイナリーについては町の土地を貸しているということになるのか。そうするといくらかでも賃借料が町に入っているのか、お聞きしたい。

【町長】

ジップラインは高い所からワイヤーに掴まって降りてくるアクティビティである。芽室神社横の公園に似た木製遊具があるが、あれに近いもので、新嵐山の頂上から降りてくるようになっている。

【意見】

大人も子供も遊べるようなものなのか

【町長】

大人も子どもも遊べるものであると認識している。夏はリフトを運行することによって、行きはリフト、帰りはジップラインで降りてくるというイメージで考えている。

次にキャンプについて「グランピング」は資料にある「パオ型テント」など、中にはベッドが入っているようなところで宿泊する、贅沢なキャンプと捉えていただければ良いと思う。近隣では帯広市のポロシリキャンプ場でやっている。ある意味バンガローの豪華版。ご質問の項目に加え「オートサイト」というものがあるが、これは車でサイトの近くまで乗り上げ、電気や水道がそれぞれのサイトに付いているもの。「フリーサイト」は特に電源や水道が個々についておらず、芝だけがあり、そこにテントを設営してもらう。フリーサイトには水や電気がないため、共同炊事場を整理したいと考えており、令和3年度にヤスモットを改修したい。「ワンデイキャンプ」は朝に来ていただき、昼食をダッチオーブンなどで調理しながら、夕方には帰っていただくような、泊まらないキャンプ。このように4種類のキャンプを来年も本格的に展開していきたいと考えている。

ワイナリーについては、新嵐山のエリア全体の中で、今まであまり大きな利用のなかった、行政側としても様々な計画で直接手を入れない町有地を賃借してワイナリーが建設されている。建設に関して、町は一切お金を出さず、土地だけをお貸ししている。この土地は、例えば事業が上手くいかなかった場合は解体・撤去含め元に戻してくださいという約束でお貸ししている。

現在、元々の土地の価格がさほど高くないため、非常に安いお金で貸している。ただ、これもワイナリーが収益を上げるようになった場合、それまでの賃料と同じというようにはならないと思っている。見直し時点において、例えば売り上げの何%をいただくとか、将来的にはそういった計算で算定していくという風に考えている。

ただ、今の段階は飛行機でいうと滑走路を走っている段階。飛び立つまではある程度安い金額でお貸ししたいと考えている。

【意見】

公立芽室病院について、4月から総合診療内科という形になるとのことだが、透析の問題がある。透析については特殊な技術を要するので難しいと思う。それで聞く所によると、内科の先生が担当すると聞いた。その両立は大変だと思う。

将来的には外科の先生を採用する予定である、という考えでよろしいか。

【町長】

今度来られる先生は、外科の資格は持っているが透析には直接的に関わる予定はない。内科の先生も大変だが、引継ぎを受けて透析医療に携わっていただいている。現実的にはシャントの関係だとか、そういった性質のものが必要になってくる。そうすると他の病院との連携も必要になってくる。

仰るようにこれは課題と認識しているので、透析のできる医師を招致できるように考えている。このままでは内科の先生に負担がかかってしまう。

私も副町長も少なくとも月 2-3 回は院長と話をさせていただき、医師の確保の問題、透析の問題は

大きな課題として毎回出ている。
今いる透析患者さんに迷惑をかけるわけにはいかな
いので、対策をとっていきたい。

【意見】

新嵐山について。昔のスキープームの時期は、放っ
ておいてもお客さんが来た。平成になり、時代が変わ
ってきた。

ある人から、新嵐山の風呂は温泉にするだけの濃度
があるのでは？ということ話を聞いた。新嵐山に温泉
施設を作れば、遠方からも人が来ると思う。新嵐山の
風呂は温泉にできる濃度はあるのか。

【町長】

私も温泉というのは非常に魅力があると思っている。
以前にも調査を入れた事があるが、日高山脈から
の岩盤があり、ポウリングしても岩盤が硬すぎる
ため、自噴で温泉が出るのは難しいという結論にな
っている。市街地の銭湯のところでも、かなり深く掘
ってやっと出てきたと聞いている。地域によって出
る所と出ない所がある。

温泉水を運んでくるという方法もあるが、費用対
効果というものも考えなくてはならない。調査の結
果としてはそういった状況なので、ご理解いただき
たい。

【意見】

新嵐山活用計画について。昨年8月10日ごろ、東
側遊歩道を通して上に行った。そのとき熊のフンを発
見した。帰ってから新嵐山の担当係に連絡をした。や
はり夏場は熊の問題があると思うが、対策をしっかり
してほしい。

展望台の方に町内だけでなく、他管内から来ている
方もいる。展望台に山の名前や高さ等の案内を入れた
方が良いのではないかと。また、休む椅子を設けて欲
しい。

【町長】

遊歩道の裏は堆肥センターがある。あの辺りから
熊が出没する。観光に活かす際は熊の対策は考えな

くてはならないので、ご意見のとおりしっかりやらな
くてはならない。今でも熊が出没した場合は遊歩道
を止めたり、あるいは林道についても止めたり、そう
いった対応をさせていただいている。

本日の資料では「展望台の充実」と記載しているが、
展望台からの景色というのは重要な景観資源である
と捉えている。しかし、展望台の老朽化やトイレにつ
いて、ちょっと使えないくらい汚い部分があって、昨
年度からプレハブ式の簡易トイレを設置させていただ
いた。活用計画としては、まず上にスカイデッキの
ようなところを設け、景色を見やすくできないかと
考えている。展望台改修には費用もかかるが、ご意
見にあったような看板の設置はしたいと考えている。

また、あそこを活用する課題としては水が取れな
いという問題がある。昔、天空カフェをやったときも
水と電気の問題があった。案のひとつとしてキッチ
ンカーの活用などを考えている。頂上エリアの魅力
化については考えていきたいと強く思っている。

展望台から見たとき、雑木があり西側の眺望があ
まり良くなかった。これについては昨年一部雑木を
伐採させていただいた。見晴らしは良くなったが、そ
の奥には国の防風保安林があり、それはかなり伸び
ていて西側が見にくい。こちらは規制があり、そう簡
単に伐採できない。今後国とも相談させていただき
たいと考えている。

【意見】

機構改革について。部制の導入についてはどうなっ
たのか。

【町長】

公約の中で「部長制度の導入について検討します」
としている。誤解いただきたくないのは「導入します」
といったわけではないこと。

芽室町は今40～50代の職員が非常に少なく20
～30代の職員が多い。この10年間で半分が入れ
替わっている。行政を進めていく係体制の中で、部
制を敷くと、役職の低年齢化が進んでしまうのでは
ないかという懸念があった。当初は部制を導入した
いと考えていたが、最終的にはこういった形に落ち

着いた。

今の仕事は課の中で完結できないことも多いため、もっとしっかり連携体制をとりたいと考えている。様々な検討の結果、課は2つ増えたが今回お示した体制となった。

【意見】

ふるさと納税について。町へのふるさと納税が増えるよう頑張らましようという提案をしたい。

ウィズコロナの時代を迎え、予測できないことが多くなった。そして町のやりくりも相当大変になっていると思う。人口が減って高齢化が進めば医療福祉費も増大する。公共施設の維持管理も増える。公立芽室病院の問題、新嵐山の活用計画、商店街の活性化。そしてコロナで出費はどんどん増える反面、税収は相当落ちるのではないかと思う。

そこで、ふるさと納税による税収を増やすことで活力の基になると思いますし、町もお金が入り、PR もできる。人も元気になり、産業も元気になっていくと考える。

新聞でご覧になった方もいると思うが、十勝の各自治体のふるさと納税の特集があった。一番ふるさと納税が多いのは上士幌町15億円、二番目が池田町の9億円、三番目の中札内村が7億円。12番目が芽室町で7,654万円。一番少ない陸別町が464万円。十勝全体では48億8,000万円。全体で50億円近く入ってきているなか、芽室町はたったのといいますが、7,654万円ですから、伸び代といいますが、頑張らなくてはと思った。

そこで、ふるさと納税を増やすための町の考え、今後の取り組みに向けてどう考えているのかお答えいただきたい。

【町長】

状況については仰るとおり。返礼品だけで考えてしまうと、魚や肉には敵わない。これは仕方がない部分もある。今までで9,700万円が芽室町のふるさと納税の最高額。今年度は巣籠もり需要もあってか1億円を超える見通しではあり、史上最高額を予定している。

新聞にも掲載されたが、若手職員のプロジェクトチームで、白糠町に視察に行った。そこでは例えばカタログが綺麗に作られており、町長の思いが載っていたりといった工夫があった。芽室町も令和3年度から一部そういった取り組みを予定している。若手職員のプロジェクトで考えたのは、何とか3億円まで持っていこうという提案があった。あくまで提案であって町の政策とイコールではないが、そういった展開をしなければならない。

また、今はそういったウェブサービスが多々ある。こういったサービスを利用する・しないでかなり変わってくる。しかし、こういったサービスを利用した場合、相応の手数料を取られる。身入りの部分が大きくなるが額面通りとはならない。芽室は3社を利用している。

貴重なご意見なので、何とか納税額を伸ばせるよう専門家とも相談している。例えば新嵐山での宿泊やアクティビティを返礼品にできないかと考えている。またふるさと納税も2種類あり、個人版は返礼品を返すことが多いが、企業版のふるさと納税もある。

おかげさまで芽室町は東工業団地に200社以上入っていただいております、地域に根付いていただいている。そのときに「新嵐山でこういったことを行うので支援をいただけませんか」と納税いただくことは可能である。制度が変わり、令和2年度から控除額が9割となった。例えば100万円を芽室町に寄付した場合、今までは6割控除だったため、40万円は企業の負担であった。これが変わったことで実質負担額が10万円となった。このような制度を活用していかなくてはならない。

国もこうした制度を推進しているので、個人版のふるさと納税だけでなく、こうした取り組みを進めていきたい。まだ具体的ではないが、オファーをかけたお話しをさせていただいた企業からはふるさと納税してよいというお返事をいただいている。ある意味「郷土愛」というものを企業にも持っていただく施策を展開したいと思う。芽室町に本社がある企業はこの制度が使えないため、首都圏などに本社がある企業にオファーをかけている。

【意見】

頑張っていたきたい。ふるさと納税を個人的にするのはどんな年代が多いというのを考えると、分析ができるのか分かりませんが、我々女性の視点で「このような返礼品があったら良い」という会を立ち上げていきたいと思っている。役場からも情報を提供いただき、情報交換をお願いしたい。

【町長】

会が立ち上がった後に声をかけていただき、意見交換の機会を設けさせていただきたい。所管としては現・企画財政課、新体制下では魅力創造課になる。そちらの方にご連絡いただければと思う。

【意見】

昨年の秋に交通標識の件で交番の方に行って標識の設置を依頼した。十字路の交差点で、南北の角だけに一時停止の標識が付いていて、北側にはない場所がある。なぜ付いていないのか交番で尋ねたところ「交番前の交差点にも一時停止の標識は付いていない。どうしても付けて欲しければ役場に要望してくれ」と言われた①。標識設置は役場の管轄か。

2点目は新嵐山キャンプ場の件。知床のキャンプ場に行くと、周囲は熊が入ってこないよう電気柵がされている。新嵐山もそういう対策が必要と思う。札幌の方は聞くと林が雑木林になって見通しが利かず熊が出てくるという話もある。新嵐山キャンプ場の東側はそういう状態になっており、熊も出る。もともと南側の牧場との間に熊の巣がある。この辺りも見通しが利かなくなっている。

また、新嵐山活用計画などを聞いていると年寄りの運動施設がないと感じる。パークゴルフ場も、はっきり言って魅力がない。他町に行くとき素晴らしいパークゴルフのコースがある。河川敷のパークゴルフ場も直すとき、以前より良くなるのかなと思ったが、丸きり以前と同じでがっかりした。パークゴルフをしている人は多く、朝5時半からやっている。そういう現状なので、南パークゴルフ場は混雑しており、他の場所は面白いコースがない。他の町村に行っているというのが現状。

新嵐山のテニスコート辺りを整備し面白いコースを

作れば人を呼べるのではないかと。

【町長】

標識の件について、交番とのやりとりは具体的には分かりかねるが、町から要望を挙げるようにという旨の話ではないかと思う。具体的な場所をお聞きし要望を挙げるようにしたい。

次にキャンプ場の件について。災害で流れてしまったが、元のオートキャンプ場は二重の電気柵を美生川沿いに這わせていた。有効な策なので、頂上や周辺で出没が多くなれば対応しなければならないと考えている。ただ、電気柵は管理が難しい。下草を刈っていないと正しく機能しないなどあるので、適切な位置含めて検討させていただきたい。

パークゴルフ場について。新嵐山は公認コースであったことなどから、色々な方からご意見をいただいた。4コースから2コースになってしまったが、パークゴルフ協会の皆さんとお話しさせていただいているのは、面積は小さくとも面白いコース作りをしていければということで、話し合いの場を設ける方向で進めている。次年度以降、工夫できる部分は取り組んでいきたい。

高齢者の運動施設について、私も大事であると考えている。一つは温水プール建て替えに伴いトレーニング室を充実させたいと考えており、高齢者の皆さんに来ていただければと思う。温水プールは公共施設の中では利用者があまり減っていない。プールの中でウォーキング等をする高齢者の利用が多いと考えられる。トレーニング室含めて環境を整えていきたい。

パークゴルフ場のテニスコート付近についてのご意見は、ひとつ参考とさせていただきたい。経費等いろいろかかるので、そこも頭に入れ検討させていただきたい。

【意見】

まず公共施設の配置構想について。車両センターを東芽室へ移転する構想ということで、今の場所が決して良いというわけではないが、あまり中心市街地から遠いと利便性がなく、有事や除雪の際に困るのではと

感じる。そういった点を踏まえ、時間をかけ検討いただきたい。

もう一つは町内会の行事に参加する人がここ1、2年で平均年齢が75歳ほどになっている。加入者も6割を切っており、そのような中で今後の運営をどうするのか苦慮している。回覧板などで情報を回すこともあると思うが、未加入の4割の方への情報伝達はどのような手段を使っているのか、お聞きしたい。

最後に一点、これは苦情になってしまうと思うが、田辺団地に関する要望に対し、今後こうしますという答えは十数年前から行政の回答は同じ。私の希望通りになっていない。これは言う方が悪いのか、聞く耳を持ってくれないのか。

【町長】

車両センターの位置については田辺団地のあり方含め、検討させていただいているが、まず今の位置は水害に遭う可能性が無いわけではない区域である。面積的にも少し小さいため、今のところ東工業団地方面で検討できないかということで進めさせていただいている。

ただ、これは従来から元町町内会、田辺団地の関係では議論があったところである。その辺りは田辺団地の今後についても私を含めお話しさせていただき、町内会の皆さんに理解をいただいた上で進めなくてはならないことはしっかり頭に入れておきたいと思っている。また町内会員以外への周知について、回覧は行っていないと思われる。しかし広報誌についてはご承知のとおり、町内会に加入していない方にも配布させていただいており、全戸配布となっている。

問題になるのは急な連絡はどうするのかといった点かと思うが、今の時代なので安心メールや将来的には戸別端末などを使った連絡を考えている。今計画しているのが、SNSを使った発信。これは令和3年度からやりたいと思っている。SNSを利用している方も多いので、時代の流れに合った媒体かと思う。しかし、一方でこういった集会や紙ベースでのやりとりを完全に無くすかといえば、そうではない。むしろ幅広い方々に伝達できる手法を考えなければならな

い。皆さんに情報を完全周知するのが難しくなっているというのは事実。正直に言って、悩みの種である。昔、町内会に8割9割入っていたときは回覧板で周知できたが、現在はそうもいかないということをご理解いただきたい。

【意見】

公立芽室病院の運営体制について。日本全体で保健所の数がどんどん減っている。そういった中で厚生労働省の地域医療構想で公立芽室病院も槍玉に上がった。それに乗っかって、何とか公立芽室病院を存続する方法を考えて、提案されていることと思う。しかし、本当にそれだけで良いのか。

先ほど質問された方は「急性期の病床確保は大丈夫なのか」と心配されていたが、私も本当にその通りで、帯広まで行ってくださいと言われて本当に大丈夫だろうかと思う。急性期の病床も一定程度確保していただきたい。

【町長】

国の指導もあって療養型や在宅診療、回復期などにターゲットを絞っていくことにはなったが、今後の医療は広域の中で役割を分担していくのが国、厚生労働省の方針になっていくと思っている。

その中で帯広市と芽室町の距離などもあって、その中で芽室の病院の果たせる役割ということを考えて直したときに、私どもとしてはそういう療養期・回復期といった病院としての役割、位置づけをしていなくては生き残っていけないのではないかと、という考え方を持っている。

何でも急性期については大病院に任せれば良いというわけではなく、病床はあるに越したことはない。これは診療科も同じで、無いよりあった方が当然良いと思っている。しかし、現実には医師確保の問題など色々考えていくと、なかなか多種多様な診療科をもち、更に急性期にも対応するというにはならないという全国的な状況があることをご理解いただきたい。

町民の皆さまにはそういった状態の病院に対し、ご支援をいただく必要があると考えている。そうでな

くでは、私が公約で掲げたように、公立病院として存続させていくということが難しくなってくる。そういう可能性があると思っているので、この段階で役割を明確にさせていただいた。

医師確保については以前にも説明させていただいたが、公立芽室病院は旭川医科大学と連携をしている。昔はいわゆる医局に頼みに行けば医師が来てくれるという状況だったが、今は医師の研修制度が変わり、研修の中で色々な症例にあたらなければならなくなった。そのため単純に医局から地域に医師を派遣するのではなく、どちらかという大きな民間病院などに研修に行くようになった。それにより、医局自体の医師が少なくなり、地方に出ている医師を引き揚げて医局に戻そうという動きになってしまった。

そうすると公立芽室病院のような、医科大学から医師を派遣されているようなところの医師はどんどん減っているのが実態である。その上で病院が生き残る道を考えなくてはならない。やはり病院は医師がしっかり働いていただかないと儲かることはない。経営上の観点含め、こういった実態があることをご理解いただきたい。

急性期の病床があるに越したことはないのですが、状況としては厳しいが、いずれにしても町民の皆さまの医療にできるだけ不満足が出ないような形にしたい。

【意見】

1月の12、13日未明に雪が降り、8時過ぎくらいに芽室小学校の西の方の通りを家族の送迎で通った。子ども達も登校していたが、その時間に重機が入り除雪をしていた。学校の構内だったが、これは町なのか学校側の請負なのか。

小さい重機でも、オペレータが一人でやっている。そうすると、子どもが入って事故になるかもしれない。やはり子どもの登下校の時間帯は避けて作業すべきではないか。もしやるにしても、監視員を配置し事故のないような体制で作業してもらいたい②。

【町長】

仰るとおり事故の危険性もある。登下校の時間帯であれば危険なので、担当課に伝える。これが事実であれば、私の方からも注意する。

ただ、詳細は分からないが、何か通路を空けなければならない理由があったのかもしれない。また、除雪は決まった時間でやるのが難しい部分もある。

【意見】

防災無線について。防災無線は何か規定があって、流せるものとそうでないものがあるのかお聞きしたい。

【町長】

戸別端末については、できるだけ町内全戸を目標に配布していきたい。平成28年の台風災害で浸水した地区や農村部は優先的に配布を進めていきたいと考えている。

発信する内容は何でも良いが、文字数に制限がある。今後も工夫し短い文字数の中で情報を伝えられるよう考えたい。

【意見】

今回の新型コロナウイルスも災害の一種と思われるが、防災無線を通じて町からこの周辺のコロナウイルスに関する情報を流しても良いのではないかと。

現状、噂が噂を呼び、デマが飛び交っている。町民を安心させてほしい。

【町長】

色々なご意見があると思うが、新型コロナウイルスの情報開示について、町としても考え方を整理させていただいている。

陽性者には保健師から連絡が行くが、そのときに居住地を公表して良いかの確認を取る。本人から同意が得られれば情報を流しても良いが、残念ながらそれを拒否された方の情報については個人情報保護の関係もあり、町としても流すことができない。

したがって町としては公共施設、あるいは町の職員といった町で管理・運営している範疇にある情報は公表するスタンスを取らせていただいている。あ

とは、居住地が芽室町であると公表して良い旨をご本人から承諾いただいた場合に限られる。皆さんも思うところがあるかもしれないが、ご理解をいただきたい。

陽性になった後の対応について、十勝管内では自宅待機といった状況はあまりないと思う。したがって陽性になれば病院に入院するというのがひとつ。濃厚接触者となった方々は保健所から他の人と接触しないよう指導を受ける。仮に陽性で無症状の場合も宿泊型療養施設などに行くことになる。

今「コロナいじめ」が問題となっている。「陽性者を知りたい」という話は私も聞きますし、危機感を持つことは悪いことではないが、それよりもご自身の予防活動を行っていただきたいと考えている。

【意見】

18日にこの会場で行われる新嵐山のセミナーがあるが、主催の方と町の関係はあるのか。

【町長】

特にはない。この主催団体には、芽室町の町づくりのために色々な調査を委託させていただいている。

【意見】

新嵐山の運営に直接介入しているということはないか。

【町長】

そのようなことはない。新嵐山の活用計画は町で策定しているので、外部の方が直接内容に指図することはない。アドバイスを受けることはあるかもしれないが、このセミナーの主催団体と強い繋がりがあるということではない。興味があれば当日ご参加いただきたい。



15:45 終了